

クマの出没に注意しましょう

問 本庁舎農政企画課（46 番窓口）
TEL 0857-30-8303 FAX 0857-20-3947

近年、クマが人の日常生活圏へ出没することが増える傾向にあり、人への被害が全国的に報道されています。

本市はクマの目撃や出没情報がある地域に該当します。秋は冬眠に備えてエサを求めるため活動が活発になり、人と出会うことが多くなります。まずは、クマと出会わないようにすることが大事です。



クマの出没を防ぐために

- 誘引物（生ゴミ、廃棄野菜・果実、食料品、ペットフードなど）を屋外、田畑に放置しない。
- 山林近くでは、夕方から早朝にかけての一人での外出は避ける（散歩、ランニングなど）。
- 山林近くでは、クマ鈴やラジオで音を出しながら行動する（クマが人の接近を察知して避ける）。
- 柿や栗の収穫は早めに行う。利用しないものは除去する。
- 果樹園には電気柵を適切に設置・運用する。
- 集落周辺の雑草、雑木を伐採するなど、緩衝帯を設けて見通しの良い空間を作る。



鳥取県公式ウェブサイト
「ツキノワグマに注意しましょう」

クマに遭遇したら

- まず落ち着く（大声を出さない）。
- 目線をそらさず、ゆっくり後退してその場を去る。
- 建物、車内へ避難する。

クマだと分かったら通報を！

クマを目撃した場合は、最寄りの警察署か、本市農政企画課または各総合支所産業建設課までご連絡ください。

クマの目撃情報には、イノシシやアナグマなどの見間違いも多くあります。クマ以外の動物でも、近づかず、刺激せず、静かにその場を離れてください。

本市では

- クマの出没（目撃・痕跡）連絡を受けて、市職員が現地確認を行っています。
※出没状況に応じた注意喚起を行います。
- クマの痕跡が確認された場合、周辺パトロール、注意看板の設置、センサーカメラの設置、追い払い、放任果樹の伐採など、出没状況に応じて対策を行っています。
- クマの出没、被害が繰り返される場合、捕獲檻を設置しています。
- 緊急の場合、銃器を用いた捕獲を行うことがあります。



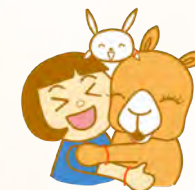
新たな鳥取市認知症本人大使「希望大使」が誕生！

～認知症になってからも自分らしく暮らし続けることができる鳥取市をめざして～

問 本庁舎鳥取市中央包括支援センター（13 番窓口）
TEL 0857-20-3457 FAX 0857-20-3906

本市では、自らの経験や工夫を生かしながら自分らしく暮らしている認知症本人を“鳥取市認知症本人大使「希望大使」”として委嘱しています。

本市在住の藤田和子さん、松本豊子さんの2人に加えて、今年8月に委嘱し新たに希望大使として活動いただく3人に、大使としての決意をお話いただきました。



認知症本人の視点で「ともに創る」

高齢者福祉の仕事に長年携わってききましたが、自分が認知症になったことで、支援者の視点だけでは気づかなかった認知症本人としての思いに気づきました。認知症になってからもより良く暮らすためには、本人の思いを理解し、一緒に考える人が必要だと、本人の立場になって実感しています。認知症は特別なものではなく、誰もがなる可能性があります。私は自分自身の状態を受け入れ、日々の暮らしの中で「何かあったらお願いね」と周りの人に伝えるようにしています。

「支援する」「支援される」という関係を越えて、市民全員で支え合いながら、認知症になってからも心豊かに生きていける鳥取市をともに創っていきましょう。



うの ひろみ 博美さん
80 歳

認知症になってからも自分の思いを伝え続けたい

私は認知症の診断を受けた当初から、認知症であることを職場の同僚など周囲に伝えていました。自分ができることを続けながら暮らすためには、自分の思いを周囲の人に伝え、理解してもらうことが必要だと感じたからです。日々の生活でも、ごみ出しの日を自分から近所の人に確認するなど、できることから始めてみました。さまざまな人に関わってもらい、それでも難しくなればみんなで解決策を考えたり、周囲のサポートを得たりして、自分にできることを続けながら暮らしています。

私は57歳のときに若天性アルツハイマー病の診断を受けました。診断後、包括支援センターから「おれんじドアとつとり」や「認知症本人ミーティング」を紹介され、そこでたくさんさんの認知症本人と出会いました。同じ立場の人と早い段階でつながりを持てたことで、自分一人だけでは考えつかなかった気づきが生まれました。本人同士の出会いは、新しい仕事や資格取得など、新たなことに挑戦する原動力になっています。



かとう てるみ 輝美さん
63 歳

本人同士の出会いが新たな挑戦の原動力に



たむら まさふみ 雅文さん
60 歳